

III 活動記録

'03—'04年度人文学会常任委員会（編）

人文学会の諸活動

一 機関誌「人文研究」の発行

（論文総目録・著者目録をP.67から掲載した）

二 論集及外国文献翻訳書の発行

○近代思想研究会論集 草薙正夫・山本 新編

『世界危機と現代思想』

一九五四（昭和二十九）年四月二〇日

理想社発行

現代人の忠誠問題

宗教と近代科学

技術と宗教

科学ヒューマニズム

米ソの政治的神話における共通性

危機思想と経済学の課題

ウェーン・シカゴ学団の動向と

宮山高菅信太郎山本武雄新一

大熊信行岩正三

『文化社会学』

一九五八（昭和三十三）年一〇月一五日 創文社発行

第一章 社会過程・文明過程・文化運動

山本 新訳

第二章 歴史の内的構造論としての歴史

・文化社会学

第三章 異説との対決

信太正三・山本新編

○神奈川叢書第二巻 信太正三・山本新編

『伝統と変革』（草薙教授還暦記念論文集）

一九六一（昭和三十六）年七月一〇日 創文社発行

贈られたものとしての自由

金子武藏正夫

江沢讓爾

その思想史的意義

鈴木成高

トインビーの人と学風

草薙正夫

「ファウスト」第一部における学問蔑視

上原專祿

○神奈川叢書第一巻 アルフレート・ウェーバー著

山本・信太・草薙訳

- 科学とニヒリズム
人間再生産論
経済学の伝統と近代分析理論
文明と世代
西洋化の悲劇
自由の反抗史観書
地域社会と「重構造」
草薙博士の人と業績
ショーペンハウエルについて
○神奈川叢書第三巻 カール・レーヴィト著
信太正三・長井和雄・山本新共訳
『世界史と救済史』――歴史哲學の神學的前提出
一九六四（昭和三十九）年三月五日 創文社発行
○人文新書 山本新・平田満男共編
『学生とともに』――大学・学問・人生――
一九六六（昭和四十二）年十月一日 神奈川大学人文学会記念出版
○小林一美・岡島千幸編
『ユートピアへの想像力と運動
――歴史とユートピア思想の研究――』
一〇〇一（平成十三）年九月五日発行、御茶の水書房
○大里浩秋・孫安石編
『中国人日本留学史研究の現段階』
- 信 太 正 三
大 熊 信 雄
宮 川 武 藤 光
福 田 山 田 朗
山 本 操 新
武 田 信 太 正 三
操 実 行
新 三
- 三 教科書出版助成
○中村浩平・塙田眞幸編
“Wollen wir Deutsch sprechen?
――ハロー! ドイツ語を話してみようか――”
一〇〇四（平成十六）年一月十日発行、三修社
- 四 人文学会定期研究会
○一九五五（昭和30）年
11月 シュプロンガーの宗教論
12月 実存の芸術的性格
長 井 和 雄
草 薙 正 夫
山 田 操
- 一九五七（昭和32）年
1月 明治における地主制の展開をめぐって
5月 「人文研究」第八集合評会
東洋芸術と西洋芸術
音楽分析と語形成
大熊信行教授著『国家悪』合評会
リルケに対するヤコブセンの影響
ガブリエル・マルセルについて
杉 原 正 孝
草 薙 正 夫
金 子 正 昭
信 太 正 三
12月 T・E・ヒュームとH・リード

5月	6月	6月	6月	6月	6月	6月	6月	6月	6月	6月	6月	6月	6月	6月	
大正期農民運動の分析	「一つの様式論」	政治の限界	現代英詩の成立について	W・B・イエイツの詩をめぐつて――	グレアム・グリーンにおける	神の問題	飯田耕作	島津昭	山本幸一	相原新操	草薙正夫	中村駿夫	草薙正夫	中村駿夫	
――神奈川県内陸地帯の調査報告書――															
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
トマス・グレイの詩について	トマス・グレイの詩について	「人文研究」第十九集 合評会	「人文研究」第二十集 合評会	メルヴィル『ベニト・セレノ』について	「人文研究」第十八集 合評会	ホーフマンスターールと現実への参加――	ヤスバースの歴史観	Shakespeareの英語における	個性・社会・教育	「人文研究」第二十一集 合評会	ビート世代批判	「人文研究」第二十二集 合評会	「人文研究」第二十三集 合評会	「人文研究」第二十四集 合評会	「人文研究」第二十五集 合評会
古英語の発音について	古英語の発音について	「人文研究」第二十二集 合評会	「人文研究」第二十三集 合評会	「人文研究」第二十四集 合評会	「人文研究」第二十五集 合評会	「人文研究」第二十六集 合評会	「人文研究」第二十七集 合評会	「人文研究」第二十八集 合評会	「人文研究」第二十九集 合評会	「人文研究」第三十集 合評会	「人文研究」第三十一集 合評会	「人文研究」第三十二集 合評会	「人文研究」第三十三集 合評会	「人文研究」第三十四集 合評会	
ヤースバースの芸術論	ヤースバースの芸術論	「人文研究」第二十六集 合評会	「人文研究」第二十七集 合評会	「人文研究」第二十八集 合評会	「人文研究」第二十九集 合評会	「人文研究」第三十集 合評会	「人文研究」第三十一集 合評会	「人文研究」第三十二集 合評会	「人文研究」第三十三集 合評会	「人文研究」第三十四集 合評会	「人文研究」第三十五集 合評会	「人文研究」第三十六集 合評会	「人文研究」第三十七集 合評会	「人文研究」第三十八集 合評会	
日本ファシズムと農村	日本ファシズムと農村	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫
英語の強意表現	英語の強意表現	杉原正孝	杉原正孝	杉原正孝	杉原正孝	杉原正孝	杉原正孝	杉原正孝	杉原正孝	杉原正孝	杉原正孝	杉原正孝	杉原正孝	杉原正孝	杉原正孝
トマス・グレイの詩について	トマス・グレイの詩について	草薙雅吉	草薙雅吉	草薙雅吉	草薙雅吉	草薙雅吉	草薙雅吉	草薙雅吉	草薙雅吉	草薙雅吉	草薙雅吉	草薙雅吉	草薙雅吉	草薙雅吉	草薙雅吉
ヤースバースの暗号解説論	ヤースバースの暗号解説論	田下雅己	田下雅己	田下雅己	田下雅己	田下雅己	田下雅己	田下雅己	田下雅己	田下雅己	田下雅己	田下雅己	田下雅己	田下雅己	田下雅己
職業陶冶と一般陶冶	職業陶冶と一般陶冶	和吉	和吉	和吉	和吉	和吉	和吉	和吉	和吉	和吉	和吉	和吉	和吉	和吉	和吉
ケラワソクについて	ケラワソクについて	操己	操己	操己	操己	操己	操己	操己	操己	操己	操己	操己	操己	操己	操己
○一九六〇（昭和35）年	○一九六〇（昭和35）年	○一九六一（昭和37）年	○一九六二（昭和37）年	○一九六三（昭和38）年	○一九六四（昭和39）年	○一九六五（昭和40）年	○一九六六（昭和41）年	○一九六七（昭和42）年	○一九六八（昭和43）年	○一九六九（昭和44）年	○一九七〇（昭和45）年	○一九七一（昭和46）年	○一九七二（昭和47）年	○一九七三（昭和48）年	○一九七四（昭和49）年
標準英語における発音の不統一	標準英語における発音の不統一	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫	須藤正夫
町村合併による市町村の変貌	町村合併による市町村の変貌	草薙正夫	草薙正夫	草薙正夫	草薙正夫	草薙正夫	草薙正夫	草薙正夫	草薙正夫	草薙正夫	草薙正夫	草薙正夫	草薙正夫	草薙正夫	草薙正夫
レーヴィットの歴史観	レーヴィットの歴史観	相原幸一	相原幸一	相原幸一	相原幸一	相原幸一	相原幸一	相原幸一	相原幸一	相原幸一	相原幸一	相原幸一	相原幸一	相原幸一	相原幸一
5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月

6月	ガブリエル・ミストラルの人と作品 ハムレットの一六〇三年	岡田辰雄	11月	明治二十年代における 若い精神的状況と思想形成の可能性	神川正彦
10月	四折本の成立	平田満男	12月	現代British Englishにおける Syntaxの動向	松川昇太郎
11月	スピノザの“自然の法則”について 「人文研究」第二十三集合評会	工藤喜作	1月	専攻語学としてのスペイン語教授法	
12月	イギリス文学にみる愛国心	須藤兼吉	2月	初期エリザベス朝悲劇における 外来と土着	
○一九六三（昭和38）年	○一九六四（昭和39）年	○一九六五（昭和40）年	○一九六六（昭和41）年	○一九六七（昭和42）年	○一九六八（昭和43）年
7月	歴史における行為の説明	5月 寒春と自由	5月 A・カストロのスペイン論	5月 文学と科学	5月 明治二十年代の英文学
6月	現代のシェイクスピア校訂	6月 ベンジャミン・フランクリン	6月 擬似文の諸問題	6月 In Cold Bloodについて	6月 一九二〇年代英國批評の今日的意味
7月	ベンジャミン・フランクリン	10月 会話における米語一般音声学	10月 アーノルドとヘルダーリン	10月 禅と寒春哲學	7月 太正・昭和期日本外交の問題点
10月	会話における米語一般音声学	11月 刺激伝播	11月 アーノルドとヘルダーリン	12月 禅と寒春哲學	11月 歴史主義の転換
11月	刺激伝播	12月 シユブランガーの神秘主義	12月 禅と寒春哲學	1月 入江信太正敏三	1月 中川太正敏三
12月	シユブランガーの神秘主義	○一九六五（昭和40）年	○一九六六（昭和41）年	中川太正敏三	中川太正敏三
○一九六五（昭和40）年	○一九六六（昭和41）年	○一九六七（昭和42）年	○一九六八（昭和43）年	須藤正三	須藤正三
2月	明治維新論に関する予備的論理分析と 思想史的アプローチの意義	5月 一九二〇年代の英文学	5月 A・カストロのスペイン論	5月 入江信太正敏三	5月 中川太正敏三
6月	東大寺お水取の行法に觀る 古代的なもの	7月 太正・昭和期日本外交の問題点	6月 神川正彦	6月 須藤正三	6月 須藤正三
7月	ドン・フワンについて 思想家としての吉田兼好	10月 歴史主義の転換	7月 神川正彦	7月 入江直祐	7月 中川太正敏三
9月	ドン・フワンについて 思想家としての吉田兼好	11月 シユペングラーの波紋	11月 神川正彦	8月 入江直祐	8月 中川太正敏三
10月	ハーバート・リードの詩論	12月 Advanced Received Pronunciation	12月 神川正彦	9月 入江直祐	9月 中川太正敏三

○一九六九（昭和44）年

6月 歴史のことば

12月 放送におけるオニッショーンと

神川正彦

一九五四（昭和29）年

4月 トインビー

江鈴成爾

福澤讓新

○一九七〇（昭和45）年

1月 ミルトンの天使論

崎山正毅

司会

『世界危機と現代思想』発刊記念講演会

江高新実

10月 日本古代文芸の成立
12月 スピノザの国家観近藤正栄
佐野正巳
中村浩平5月 アインシュタインの思想的發展
フランス革命史学

菅原重雄

○一九七一（昭和46）年

カフカの最後の作品について

近藤正栄
佐野正巳
中村浩平5月 技術と宗教
ニイチエの実存主義

江高新実

○一九七二（昭和47）年

2月 アメリカ南部の時間相
6月 『セールスマンの死』の悲劇性
Carryとその類義語の意味分析熊野麒一郎
鈴木英允
荒井義明5月 経済学の実践性
忠誠義務の問題

江高新実

○一九七三（昭和48）年

5月 思想史の破壊と破壊の思想史
6月 教授システムの評価神川正彦
小池栄一
佐野正巳5月 忠誠義務の問題
司会

江高新実

○一九七三（昭和48）年

1月 明治末年の鶴外
(その後の資料未収録。現在は定例研究会は開かれていない)

前川清太郎

○人文学大発会記念講演会
19五四（昭和29）年

江高新実

○近代思想研究会論集

11月 実存理性の論理

東京教育大教授

12月 スペイン及びラテン・アメリカ文学展望

江高新実

- | | |
|----------------------|--------------------|
| ○人文学会第八回教養講座 | ○人文学会第七回公開講演会 |
| 6月 文化のさむらい | 6月 挨拶 |
| 子供の未来国と教育 | 日本人の宗教心 |
| ○人文学会・商経法学会共催出版記念講演会 | 文化と世代 |
| 人文系『伝統と変革』 | 文芸評論家 |
| 商経法系『日本経済の成長と構造』 | ○人文学会美術講演会 |
| 9月 あいさつ | 7月 現代美術の諸傾向 |
| 中島健蔵 | 美術評論家 |
| 長井和雄 | ○一九六三(昭和38)年 |
| 大熊信行 | 7月 (小田原) |
| 草薙正夫 | 哲學は無力か |
| 宮原鑑記 | 現代における人間喪失 |
| 岡野信行 | ○一九六四(昭和39)年 |
| 草薙正夫 | 5月 ギリシャ彫刻について |
| 大熊信行 | 6月 (横浜市開港記念館) |
| 門山新 | 二つの転向 |
| 古沢源刀 | 東洋と西洋 |
| 馬直美 | 6月 シェイクスピアの世界 |
| 草薙正夫 | 11月 (千葉市商工會議所) |
| 大熊信行 | 現代アメリカ文学における人間 |
| 日本の大學生は何を反省すべきか | 実存主義とは何か |
| ○人文学会音楽講演会 | ○一九六五(昭和40)年 |
| 6月 バロック音楽について 音楽評論家 | 5月 法学会 経済学会創立記念講演会 |
| 野呂信次郎 | (三学会共催) |

○一九七三（昭和48）年 1月 人文学会創立二十周年祝賀会（別館） (-)の間の資料未収集)	7月 西ドイツにおける学生運動と大学改革 長井和雄	7月 中国の「民間文学」 大久保明男
○一九九七（平成9）年 5月 21世紀の中国言語学 University Education in England 楊度と立憲君主制 新会員歓迎講演会	鄭錦全 Emma Knowles 李曉東	7月 漱石における笑いと明治という時代 マクベス（英語劇）
6月 日本人大学生の英語の発音の特徴 —特いイントネーション— 行政と住民による協同型資源回取 隠居の権力—古代天皇制の場合— Okinawan Historical Identity	前田マーガレット 松本安生 篠敏生 Dr. Michael Weiner	7月 朝鮮近代史から見た日中関係史 ぼくの役者人生 文化的顔は、国のかたち
20世紀を生きぬく—ペペイン内戦・ラグリ体験をふまべー Migrant Workers in Japan 新聞記者の見た中南米 —私たちと異文化社会— ペルー人質事件の真相 —人質事件の真相— —公邸に入つた!— 中国日裔青年の現状	ジャック・ロッシ Dr. Michael Weiner 伊藤千尋 松澤木正男 松本仁一 松田正樹 馬興國 藤中野記功	10月 The Pre-Raphaelite Painters of Victorian English (with slides) —記者の取材ノートから— 環太平洋国際文化交流の未来 —日本とウラジオストク・沿海州— レオニード・イヴァノヴィチ・ドナーチョフ / ヴィクトル・アレクサンドロフ / ヴィタリ・ボダロフ / ヴィタリ・ガルキン
3月 現代母性社会と癒し		

○一九九八（平成10）年

5月	青年海外協力隊に参加して—アルゼンチン での私（日本語教師）の2年間—	紺 谷 昌代
6月	新会員歓迎講演会 代名詞化について 言語の社会的属性の研究 中国現代の旧体詩問題 日本社会の東と西 中国の現状 —朱鎔基登場を中心に— 横浜での中国帰国者日本語教室の体験	西野清治 彭国躍 木山英雄 福田アジオ 楊中美 早川秀樹 楠かつなり 溝口雄三
7月	インターネット時代の個人作品の可能性 —デジタル映像による撮影と編集— 物語としての中国思想史 パソコン入門からインターネットの ホームページ作成まで キヤンパスワード情報ネットワークと CATVの教育的利用 Why communication is not a joke —Relevance and Content— —語用理論—	井内義臣 齊藤よしお
10月	19世紀後半南北アメリカへの 華人の移出と初期駐米公使の研究	王正浩

○一九九九（平成11）年

5月	外国语ひとりの英語の翻訳 Noticing of Their Own Second Language Output and Effects on Subsequent Task Performance by Japanese Learners of English as a Foreign Language	王津
12月	ロマン派の詩と伝承バラッド ラジオ放送とラジカルケーションへ	戸田基 Hilary Valdez
4月	日中両国語同時通訳の授業を担当して —外國語ひとりの英語の翻訳— Learner's Noticing of Their Own Second Language Output and Effects on Subsequent Task Performance by Japanese Learners of English as a Foreign Language	王津
6月	中国での銀行ビジネス8年間の経験 教室の中のジェンダー 雑誌をつくる —月刊誌Studio Voiceの場合— 男や女でみんなへ男性から女性への ムカシナズミジェンダーを生きる—	湯川謙 木村涼子 加藤陽之 葛森樹 山田裕香 赤坂治績 深田独

10月	園田節子
10月	中国で日本語を教えて 表現のメディアとしての映像 日本の芸能—伝承と『かたち』—
19月	19世紀後半南北アメリカへの 華人の移出と初期駐米公使の研究
11月	上海の語の物評論について
11月	Diane Blakemore

Re-designing Preservice Education
to include Gender Equity

—男女平等教育を
教員養成課程に導入するため—
Ms. Paula T. Bourne

戸田基
Hilary Valdez

11月	中國関連企業就職心得	片寄浩紀	新会員歓迎講演会	孫安石
12月	『人を援助する樂しさのためにプロを鍛える アマチュア』あなたは「プロモーション」…? それとも「アマチュア」…?		東アジア近代史とラジオ放送 戦争と言語～第一次世界大戦下に おける新聞の文体研究	岩本典子
1月	女性に対する暴力—D.V.夫や恋人からの 暴力の実態と解決の課題	辻井大信	婚姻制度のなかの姓と性	星野澄子
○○○○(平成12)年	1931年—ジャンク・移民・豚 海南島海闊貿易移民報告1876	阿部裕子	「ジエンダー法社会学の視点から 中国映画事情	矢野目直子
4月	『ニュース23』をつくる男 ～メディア本来の姿を語る	藤村是清	異文化交流の仲介者＝通訳の役割 ～英語通訳の体験と後進の教育	ラリーサアフミコワタヤ
5月	上海から中国近代史を見る フィリピンの商業伐採跡地を めぐる土地・資源問題	金平茂紀	国際文化交流のハイテクノロジー ～新千年と演劇～タニラフスキートチエーホフ ～ロシア・アメリカ・日本・西欧での体験をふまえて 中国帰国者の戦後処理～支援、責任と市民運動	バート・スマス
6月	日本軍の性暴力 ～中国山西省での調査で思うこと	関良基	カルチャーラルスタディーズ・サルタン・タダイーズ ～ポストコロニアルといふ概念について	レオニード・デシシモフ
12月	元在ベルー外交官が見た大統領選挙 生涯現役『若い人々へのメッセージ』 前途遠	石田米子	横浜の国際交流活動について ～現場と地域からみたボランティア活動	ロバート・イファード
1月	馳原岳雁山の暮雲 苦境を脱した朱鎔基の国有企业改革と WTO加盟を巡る中国の対応 未来の問い合わせのポストコロニアリズム	小倉英敬	韓国の付加価値税制 人文学会シンポジウム 『21世紀、アジアの座標軸を求めて』 Part I 東アジアの相互認識	竹中千春
7月	鶴岡哲孝 杉本潤	村上	木山英健	司会

○一〇〇一（平成14）年

5月	毛沢東時代の経済建設――織建設 中国近現代史と変法運動の評価について 行つてみたロシア住んでみた中央アジア	呉晓林 孔祥吉 指智则
7月	新会員歓迎講演会 自然言語理解における意味分析 教員の資質能力の向上について 二字漢語の語順について――反義語の場合 情報教育の体系と教科情報の位置付け	徐峰 山田晃 尹亭仁 井磯夫 邵敬敏
10月	中国語文法論史研究の問題点 人文学会学生部会主催 『9・11とアッショ政権』――ワシントン 支局長はその時何を見たか 私の「モスクワ放送局」勤務	丹波哲郎 中井良則 内藤忠明 何堀孝弘 大場恵彬 陳祖恩
11月	明るく、素直に、あたたかく 『生きるための翼』ピアノリサイタル 新会員歓迎講演会 ロシア思想研究の現在 平安時代の暴力と秩序 子どもの目をとおしてみた イギリスと日本	高峰仁 野球と氣象 『上海から見た戦後日中関係史』 『生きるための翼』ピアノリサイタル 新会員歓迎講演会 ロシア思想研究の現在 平安時代の暴力と秩序 子どもの目をとおしてみた イギリスと日本
1月	中国都市史研究を語る――天津の近代 多様な性のあり方を考える お酒の地理学 新会員歓迎講演会 高齢者の地理学 「呼びかけの表現」の日朝対照研究	張利亞 八久保厚志 野宮亜紀 内藤忠明 何堀孝弘 大場恵彬 陳祖恩 白須康子 白山利信 早川秀樹 平井誠

○一〇〇三（平成15）年

3月	中國の少数民族政策――貴州苗族の場合 中国のチベット宗教政策 『市長、原稿無しで語る』	楊志強 イリナ・ガリ 中田宏
4月	中国語学科FOC 『胡弓と中国の伝統音楽について』	劉軍 曹振威 平井信行
6月	上海から見た戦後日中関係史 野球と氣象	久保智
7月	『生きるための翼』ピアノリサイタル 新会員歓迎講演会 ロシア思想研究の現在 平安時代の暴力と秩序 子どもの目をとおしてみた イギリスと日本	前田禎彦 大須賀史和 大須賀史和 前田禎彦 大須賀史和 大須賀史和
12月	横浜市の国際交流活動について 地域と密着する国際交流活動 豹変するロシア ――建都300周年の サンクトペテルブルグを訪ねて――	浦川久代 早川秀樹 白山利信 平井誠
1月	中国都市史研究を語る――天津の近代 多様な性のあり方を考える お酒の地理学 新会員歓迎講演会 高齢者の地理学 「呼びかけの表現」の日朝対照研究	生越まり子

9月	本世社会における軍記物語の展開と再生 韓国における英語教育と日本語教育 現代中国語の時間体系について 今後の日中経済関係	11月 国際シンポジウム 「アジアのボップカルチャーと日本」 (人文研究所・国際交流センターと其懇)	加藤宏紀 睦正洙 片寄浩紀
10月	新会員歓迎講演会 日本語とイタリア語の比較統論 『宗教』の成立と展開をめぐる近年の議論 意味論分析の方法論	司会 —横浜寿町から コメンターター 王向華 程郁 陳洙 寺澤順愛 市川孝一 大沢敏郎 岩畑貴弘 辻子美保子 前川理子 羽佐田理恵	パネリスト オスカーハンボーマー 七その他 ○一〇〇一(平成14年) 12月 機関誌『人文研究』を第二四〇号 (二〇〇〇年から国立情報学研究所の データベースに載せる)とを決定した。 ○一〇〇三(平成15年) 8月 人文学会の看板を掲げた。鈴木陽一 外国语部教授のご尽力により、 任平氏(中国)に制作を依頼、 人文学研究所と共に設置した。
11月			六 独立ネットワークの構築とホームページの掲載 ○一〇〇三(平成15)年 3月 クライアント・サーバーシステムを 人文学研究所内に構築した。 クライアントPC3台 ホームページを掲載した。 URLは左記の通り。
12月			http://human.kanagawa-u.ac.jp/